

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立中道中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

人を愛し自然を大切に作る心豊かな人間を育てる
 協力し合う生徒
 自立する生徒
 創造していく生徒
 支え合う生徒

今年度の指導の重点

- ・確かな学力を育てる
- ・豊かな心を育てる
- ・主体的に考え行動できる生徒を育てる
- ・地域や保護者と連携した教育活動を推進する

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況踏査の結果】

全国

国語A、B、数学A、Bともに県平均と比べると正答率が高い。とくに国語Bについては県平均よりかなり高い。
 理科については、県平均と比べると正答率は低い。
 国語については「話すこと・聞くこと」の領域が県平均より高い。
 どの教科においても、記述式問題の無回答率が県平均よりは低い。

県

数学については、県平均と比べると正答率が高い。
 国語、社会、理科については、県平均と比べると正答率は低い。
 理科の活用の正答率が県平均と比べると高い。
 社会については、基礎に課題がある。国語、数学、理科については、活用に課題がある。
 国語については、漢字の読みはできているが、物語の読み取りができていない。
 社会については、資料活用の技能は高いが社会的事象についての知識理解が低い。
 数学については、数量や図形についての知識・理解は高いが、数学的な考え方が低い。
 理科については、観察・実験の技能については高いが、自然事象についての知識・理解が低い。

【学習状況調査の結果】

学校が楽しいと感じている生徒が多い。
 授業の初めに目標が示されている割合が県平均と比べてかなり高い。
 数学、国語の勉強が好きであると答える生徒の割合が県平均と比べるとかなり高い。
 家庭学習の時間(1時間以上)の割合は県平均と比べると高い。
 読書時間(30分以上)の割合は県平均と比べるとかなり高い。
 あいさつをする生徒の割合は県平均と比べると高い。

 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることが県平均と比べると低い。
 テレビ等の視聴時間(1時間以上)の割合は県平均と比べると高い。

成果と課題

朝読書の取り組みを続けており、朝から落ち着いた学習環境を整えている。また、図書館の利用頻度や読書時間も多い。
 授業の中で目標掲示を徹底しており、生徒がその目標達成に向けて授業を大切に受けている。
 授業規律の徹底をしており、時間を守る、服装を整えることができている。
 魅力ある授業づくり徹底事業やげんぼプロジェクトで、職員の研修が充実しており、教科指導の改善が進んでいる。
 学校行事の中で生徒自身に達成感をもたせる取り組みを通して、自己肯定感が高まっている。
 家庭との連携を図り、家庭からの協力を得ている。

 漢字の読みや基礎的な計算力や自然事象についての知識などについて、複雑な設問については、問題の意図を読み取れていない生徒が多い。
 選択式、短答式の問題と比べて、記述式の問題については無回答率が高い。
 平日の学習時間1時間以上の割合が県平均を上回っているが休日の学習時間は短い。
 メディアの利用時間の割合は県平均と比べると高い。

課題に対応した改善方法

授業で文章を書くことに慣れさせたり、基礎的な知識を繰り返しプリント学習したりする。
 公式の成り立ちをなぞったり、自分の考えを深める活動を取り入れた学習をしたりすることで、集団の質を高めていく。
 イメージにくいものは、実物やICTなどを活用し、五感に訴えた教材を活用していく。
 学習の中で、簡単なことでも体験する活動や言語活動を増やしていく。
 自分の考えを人に伝えたり、人の考えを聴いたりする体験を増やしていく。
 授業研究会を中心に据えた校内研修の実施などで授業改善を図る。
 岡山県型学習スタンダードの更なる徹底を図る。
 授業のユニバーサルデザイン化を図り、誰もが学習しやすい環境を整える。
 「学習の手引き」の更なる活用。
 メディアと上手に接する態度の育成。

取組の検証方法及び検証時期

生徒へのアンケートの実施(10月、2月)
 中2に学力定着状況たしかめテストの実施(10月)
 授業参観シートの活用(随時)
 校内研究授業の研究協議で検討(学期ごと)
 学校行事の反省(随時)
 生徒による授業の振り返りシートの活用(随時)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

自分の考えを深めたり、広げたりすることができる割合を60%以上にする。
 休日の学習時間が1時間以上の割合を65%以上にする。